

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果および考察

大阪狭山市立東小学校

1. 昨年度の学力向上の取組みの成果と課題

昨年度の全国学力・学習状況調査および小学生すくすくウォッチの結果を踏まえて、学校全体で以下の取組みを行いました。

- ① 授業・家庭学習における「複数の条件に沿って自分の考えを書く」学習活動の設定
・令和5年度全国学力・学習状況調査「国語」では、記述式問題の無解答率が高く、課題であったことから、授業等で「複数の条件に沿って自分の考えを書く」学習活動を意識的に設定しました。
- ② 4・5・6年生対象「力だめしプリント（国語・算数）」の実施
・本校の子どもたちの学力課題に対する伸びを確認するため、「力だめしプリント」を学期に1回実施し、子どもたちの状況を把握・分析しました。
- ③ タブレット端末の活用
・子どもたちの主体的な学習意欲を引き出すため、タブレット端末を活用した課題解決学習に積極的に取り組みました。

(成果)

「力だめしプリント」国語の記述式問題では、4・5・6年生とも無解答率が低くなっており、成果が見られました。

(課題)

「力だめしプリント」国語の記述式問題では、自分が書いた文章を見直して、適切に解答できているか確認すること（すべての条件を満たしているか、制限内の字数で書くことができているか等）に課題が見られました。

2. 教科における成果と課題について

【成果】

○国語

「国語」の調査では、全体の平均正答率が全国を上回り、良好な結果でした。

特に「複数の条件に合わせて、自分の考えを記述する」出題で成果がみられました。設問3-三「【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く」問題では、平均正答率が全国を上回るとともに、無解答率も全国を下回っており、良好な結果でした。

設問3-三では、3つの条件に合わせて書くことが求められましたが、多くの子どもたちが条件を漏らさずに記述することができました。これは、上記「1. 昨年度の学力向上の取組みの成果と課題」における①・②の取組みの成果であると考えています。今回の調査結果をふまえつつ、子どもたちがまとまった量の文章を抵抗なくすらすらと書くことができるよう、今後も授業等で「複数の条件に合わせて、自分の考えを記述する」学習活動に継続して取り組んでまいります。

○算数

「算数」の調査では、全体の平均正答率が全国を上回り、良好な結果でした。

特に「データの活用」に関する出題で成果が見られました。設問 5- (3) 「折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する」問題では、平均正答率が全国を上回るとともに、無解答率も全国を下回っており、良好な結果でした。

設問 5- (3) は、折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する問題でしたが、多くの子どもたちが折れ線グラフを適切に読み取り、出題の意図に沿って解答を記述することができました。これは、上記「1. 昨年度の学力向上の取組みの成果と課題」における①・②の取組みに加え、③「タブレット端末を活用した課題解決学習」の成果であると考えています。今後も子どもたちが自分で学び方を選択したり、情報活用能力を発揮したりする学習場面を通して、子どもたちが身の回りの事象について主体的に考察する力を高めることができるよう、支援してまいります。

【課題】

○国語

「話すこと・聞くこと」と「読むこと」に関する出題に課題がありました。

「話すこと・聞くこと」では、特に設問 1-二 (2) 「オンラインで交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切なものを選択する」問題で、平均正答率が全国を下回っていました。

自分の考えが伝わるように表現を工夫したり、資料を効果的に活用したりするためには、相手や目的を意識して、表現方法や資料選びを工夫することが大切です。また、実際に話す場面では、聞き手のうなずきや表情等にも注意しながら、聞き手の状況に応じて話し方を工夫する必要があります。

本校では、相手や目的を設定して、自分の考えを話す学習活動に各教科で取り組んでいますが、今回の調査結果をふまえ、聞き手の反応に注目して、状況に応じて表現を工夫することや、目的に沿ってわかりやすく伝えるために、あらかじめ資料を工夫して準備しておくことについて、指導方法の改善に努めてまいります。

また「読むこと」では、特に設問 3-二 (2) 「【話し合いの様子】で、原さんが【物語】の何に着目したのかについて説明したものとして、適切なものを選択する」問題で、平均正答率が全国を下回っていました。

設問 3-二 (2) の回答類型をみますと、多くの子どもたちが、原さんの話し相手である島さんが「表現の効果」に着目して話していることを捉えることができていた一方で、原さんが「登場人物の気持ちや考え方」に着目して話していることを捉えることができていなかったことがわかりました。登場人物の人物像を具体的に想像するためには、登場人物の行動や会話、様子などを表している複数の叙述を結び付け、それらを基に性格や考え方を総合して判断することが大切です。今回の調査結果をふまえ、子どもたちが国語の授業や読書の時間に物語文に触れる際に、複数の叙述を結び付けて、人物像を具体的に想像して読み進めていくよう指導してまいります。

3. 児童生徒質問紙調査について

項目	肯定的割合 (%)		
	R5 本校	R6 本校	R6 全国
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	71.9	85.7	83.5
英語の勉強は好きですか	75.8	65.0	69.3
自分には、よいところがあると思いますか	88.7	92.2	84.1
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	70.5	78.6	67.1
5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	63.6	69.3	67.6

○「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」

昨年度は肯定的に回答した子どもたちの割合が全国を下回りましたが、今年度は上回りました。これは昨年の「東小応援団サポーターズ」の発足以来、本校におけるコミュニティ・スクールの取組みが進み、地域学校協働活動が活性化したこと、子どもたちと地域の方々との出会いの場が増えたことによる成果であると考えています。今後もコミュニティ・スクールのメリットを最大限に生かし、子どもたちの体験活動を一層充実させるとともに、「自分らしく、いきいきと学び、さやまを愛する子」の育成を推進してまいります。

○「英語の勉強は好きですか」

昨年度は肯定的に回答した子どもたちの割合が全国を上回りましたが、今年度は下回りました。子どもたちが中学校英語にスムーズに接続し、英語力を高めていくことができるよう、子どもたちが「英語を使って発表したり、活動したりすることが楽しい」と感じる授業づくりに向け、一層の工夫改善を進めてまいります。同じく今年度の質問紙調査で問われた「英語の授業の内容はよく分かりますか」に対する肯定的な回答の割合は、全国を上回る結果でした。

○「自分には、よいところがあると思いますか」

今年度、昨年度とも全国を上回りました。これは、本校の学校教育目標「一人ひとりが輝く学校」の趣旨からも、大きな成果であるにとらえています。これも一重に、学校と方向性をそろえて、普段から子どもたちのがんばりを認め、あたたかい声をかけてくださっている保護者・地域の皆様のお力添えによるものと考えております。今後も保護者・地域の皆様とともに、子どもたちの自尊感情の向上に向け、発達支持的生徒指導を推進してまいります。

○「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」

今年度、昨年度とも、全国を上回りました。これは、学習 e ポータルを活用した毎日の

健康観察（子どもたちがタブレットで回答する健康観察の質問項目に、「先生と面談を希望する」という項目を設定しています）や、毎学期実施しているカウンセリング週間及びいじめアンケート、希望者に対して実施しているスクールカウンセラー等による相談の成果であるにとらえています。今後も子どもたちの困りごとや不安の早期発見に努めるとともに、学校と家庭との連携のもと、早期解決に取り組んでまいります。

○「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」

昨年度は全国と同水準でしたが、今年度は全国を上回りました。これは、これまで取り組んできた校内研究において、子どもたちの情報活用能力を高めつつ、「自分の考えを理由や根拠を示しながらわかりやすく伝える」言語活動を大切にされた授業づくりに取り組んできた結果であるにとらえています。今後も子どもたちが相手意識を持って、自分の考えをわかりやすく伝えることができるよう、指導方法の工夫改善を進めてまいります。